

研究開発活動

研究開発活動の概要

オリンパスは、当社グループのコアコンピタンスである光学技術、デジタル映像技術、微小加工技術等において、積極的な研究開発活動を展開しており、今後もさらなる基盤強化をしていく方針です。当社は、主要3事業への貢献に直結する技術開発に重点を置いた戦略的取り組みを進めてきましたが、特に医療事業を中心として経営資源を投下することとしています。この方針に基づき、2015年3月期の部門別

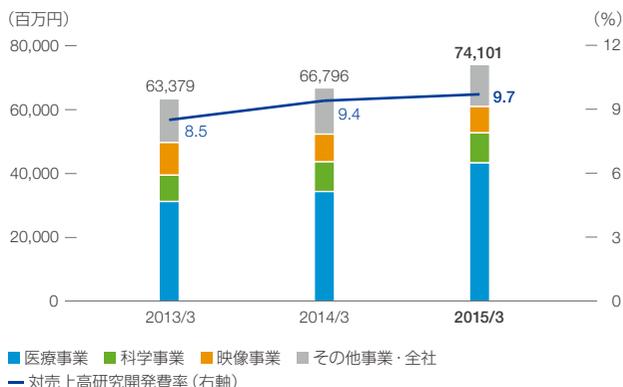
事業部門別研究開発費の状況

決算年月	2014年3月期	2015年3月期	増減率
医療事業	34,380	43,324	26.0%
科学事業	9,276	9,407	1.4%
映像事業	8,672	8,229	△5.1%
その他事業・全社	14,468	13,141	△9.2%
合計	66,796	74,101	10.9%

研究開発費では医療事業が前期比26.0%増と大幅に増加しており、今後も医療事業の比重が高まる見込みです。

2015年3月期に投下した研究開発費は前期比10.9%増の741億円であり、売上高に対する比率は前期から0.3ポイント上昇し9.7%となりました。

研究開発費／対売上高研究開発費率



新事業創出に向けた研究開発投資

その他事業部門では今後、2015年4月からスタートした新組織体制のもと、新たに設置した事業開発室が中心となって新事業の創出を目指し、積極的な研究開発投資を行います。

ターゲットとする事業領域は、従来、映像事業内で投資を実施してきたBtoBビジネスへの事業拡大を図る「映像技術領域」と、医療事業の強みを活かして周辺領域の開拓に取り組む「医療領域」です。

	新事業の狙い	主なターゲット市場・領域
医療領域	医療事業と親和性の高い周辺領域の開拓	整形外科領域 再生医療領域 等
映像技術領域	映像事業で培った技術を活かしたBtoBビジネスのソリューション提供	製造市場 自動車市場 等

● 医療領域

当社は、既存の医療事業とのシナジーが期待できる周辺領域の研究開発に継続的に取り組んできましたが、この領域の本格的な事業化を目指して投資を積極化します。

具体的なターゲット領域としては、整形外科領域や再生医療領域等、当社の医療事業が提供する価値である「低侵襲治療」に貢献する最先端の分野を開拓します。

● 映像技術領域

映像事業内において行ってきたBtoBビジネス拡大の取り組みを、今後は新事業領域への投資の一環としてさらに強化します。カメラ市場の厳しい競争の中で培ってきた最先端の光学技術・画像処理技術は、高品質が要求されるBtoB向け製品の市場で大きな活躍が期待できます。例えば、工場の生産ライン等で使用されるファクトリーオートメーション用のカメラや、現在さまざまな用途で標準搭載化が進んでいる自動車用の車載カメラ等の領域で、収益化に向けた事業拡大を図ります。

長期的には、これら以外の製品分野においても当社の映像技術が活用できる領域を開拓し、事業化の可能性を幅広く探索していきます。